

## 要 旨

試験委託者 環境省

表 題 N, N-ジエチルアニリンのヒメダカ (*Oryzias latipes*) に対する  
急性毒性試験

試験番号 No. 2008-生41

### 試験法ガイドライン

本試験は、厚生労働省医薬食品局長、経済産業省製造産業局長、環境省総合環境政策局長連名通知「新規化学物質等に係る試験の方法について」(薬食発第 1121002 号、平成15・11・13 製局第 2 号、環企発第 031121002 号、平成15年11月21日、平成18年11月20日改正)に従って実施した。

- 1) 被験物質 : N, N-ジエチルアニリン
- 2) 暴露方式 : 半止水式で48 時間後に試験溶液の全量を交換 (密閉系)
- 3) 供試生物 : ヒメダカ (*Oryzias latipes*)
- 4) 暴露期間 : 96 時間
- 5) 試験濃度 (設定値) : 対照区, 7.5, 10, 13, 18, 24, 32 42 mg/L  
公比 ;  $10^{1/8}$  (約1.3)  
18 mg/L (pHを 7.5 に調整した区) を追加。
- 6) 試験溶液量 : 5.0 L/容器
- 7) 連数 : 1 容器/試験区
- 8) 供試生物数 : 10 尾/試験区
- 9) 試験温度 :  $24 \pm 1$  °C
- 10) 照明 : 室内光、16 時間明/8 時間暗
- 11) 給餌 : 無給餌
- 12) 通気 : なし
- 13) pH : 試験溶液の pH 調整は行わなかった。ただし、pH 変動の影響を調べるため 18 mg/L 区については、暴露開始時の pH  $7.5 \pm 0.1$  に調整した区を追加した。
- 14) 分析法 : HPLC 法

## 結 果

予備的な検討において当該被験物質については揮発性が認められたことから、暴露期間中の濃度維持を目的に密閉系で試験を行った。

### 1) 試験溶液中の被験物質濃度

暴露期間中の被験物質濃度は、揮発による軽度の減少が認められた。従って、各影響濃度（50 % 死亡濃度、0 % 死亡最高濃度、100 % 死亡最低濃度および最大無作用濃度）の算出に当たっては、暴露開始時、48時間換水前後および暴露終了時の測定値の時間加重平均値を採用した。

### 2) 50 % 死亡濃度 ( $LC_{50}$ )

24 時間 50 % 死亡濃度 ( $LC_{50}$ )	: 31 mg/L
	(95 % 信頼限界 28 ~ 44 mg/L) , Logit
48 時間 50 % 死亡濃度 ( $LC_{50}$ )	: 29 mg/L
	(95 % 信頼限界 26 ~ 33 mg/L) , Probit
72 時間 50 % 死亡濃度 ( $LC_{50}$ )	: 27 mg/L
	(95 % 信頼限界 24 ~ 30 mg/L) , Probit
96 時間 50 % 死亡濃度 ( $LC_{50}$ )	: 26 mg/L
	(95 % 信頼限界 22 ~ 30 mg/L) , Binomial

### 3) 0 % 死亡最高濃度、100 % 死亡最低濃度および最大無作用濃度

0 % 死亡最高濃度	: 22 mg/L
100 % 死亡最低濃度	: 30 mg/L
最大無作用濃度	: 6.9 mg/L